

新燃岳 2011 年噴火の噴出物の結晶サイズ分布の特長

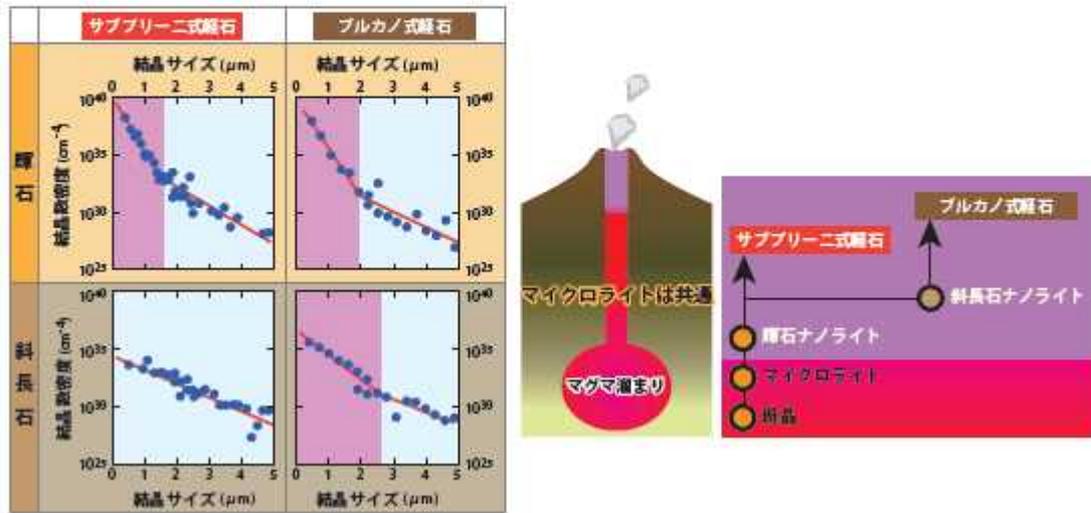


図7 マイクロライト（ミクロンスケールの結晶）のサイズ領域では、輝石・斜長石ともブルカノ式かサブプリニー式の噴火様式による違いは見られない。一方、ナノライト（サブミクロンスケールの結晶）の領域（概ね2マイクロメートル以下）は、ブルカノ式の斜長石にはマイクロライトとの傾きの違いが顕著に認められるのに対し、サブプリニー式の斜長石には認められないという違いがある。火道浅部のマグマが受ける減圧過程の相違が表れていると考えられる。左図中、紫色の背景色は、マイクロライトの傾きと顕著な違いが認められるナノライトの領域を示す。

噴火に先行した地殻変動

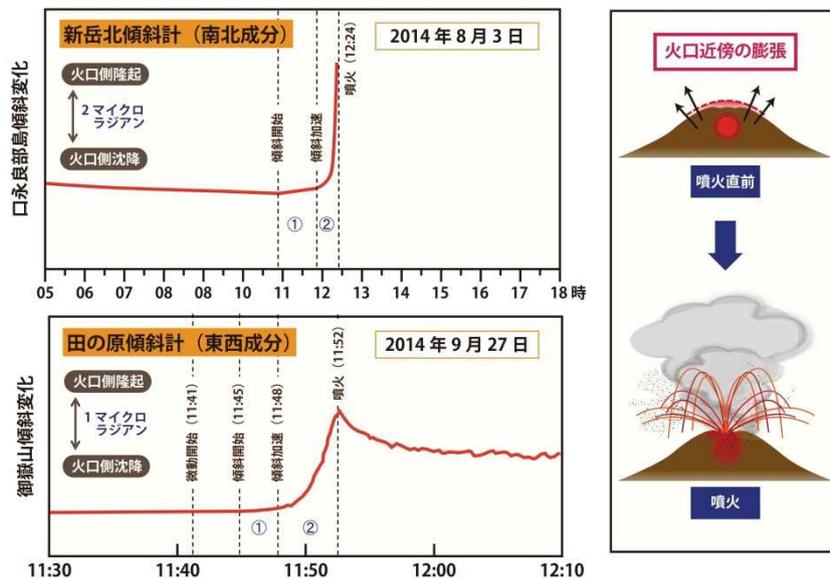


図8 2014年8月3日、口永良部島新岳火口で爆発的噴火が発生した。新岳火口の北東約200mの傾斜計により噴火直前の変動が記録された。①噴火の約1時間半前から火口側の隆起が始まり、②約30分前から急加速した。2014年9月27日に御嶽山で発生した水蒸気爆発では、火口から南東約3kmの傾斜計で噴火直前の変動が記録された。①噴火の約7分前から火口側の隆起が始まり、②約4分前から急加速した。